

けあ

ぷろふいーる



釧路孝仁会記念病院

北村泰宏 外来係長

フライトナースを務める

後進の育成が課題 へり誘致から参加

帯広厚生病院で手術室看護師として12年間勤めた後、2004年

から釧路市の星が浦病院に勤務。釧路孝仁会記念病院の開院ととも

ある看護分野だったため、ドクターへりの道

1人当たり月に3〜4回フライトに従事している。患者の状況は現場に到着するまで分からないことが多く、「その場で判断を求められることがある」。

心停止の患者が、必死の救命活動によって機内で息を吹き返した時は、やりがいを感じるとともに、ドクターへりの重要性をあらためて実感することも少なくないという。

東圏域への誘致段階から、署名活動やさまざまな準備などに積極的に関わってきた。

現在、同病院のフライトナースは3人体制。普段は外来看護師として勤務し、

「特殊な資格を必要とするわけではなく、何よりも経験が大切」といい、候補者の業務指導などを行う傍ら、効果的な教育体制の整備を進めている。

平成29年1月27日 (金)

北海道医療新聞 5面